

# 《フィリピン》アロヨ政権(第2期) 閣僚・大統領府高官プロフィール(上)

内閣の陣容 [2005年10月1日現在]

2004年大統領選挙後に発足(7月)した第2期アロヨ政権は、その出発時から現在に至るまでに閣僚や大統領府高官の顔ぶれが大幅に入れ替わっている。特に、今年7月には、アロヨ大統領の大統領選挙での不正疑惑などに関連し、主要な経済閣僚ら閣僚級高官10人(通称「ハヤット10」)が大統領の退陣を求める声明を出して「集団辞職」するなどの事態が発生したため、その直後から順次、新任閣僚を充当して現内閣が構成されてきた。中には、教育相や農地改革相などいまだに代行職を置いているポストもある。本欄では、執筆時点における最新の閣僚リストとそのプロフィールを紹介する。

(注)「▼データ→」に続く( )内は「人物データ・ファイル」が既に掲載されている本誌のバックナンバーを示す。

## ■大統領 President

グロリア・マカパガル・アロヨ  
Gloria Macapagal-Arroyo

2001年1月20日、大規模な市民集会(「ピープルズパワー2」=「第2エドサ革命」)によりエストラダ政権が崩壊したことで、副大統領から大統領に昇格。04年5月の大統領選で当選し、6月30日に2期目に就任。

▼データ→(00/11/15)(04/04/15)

## ■副大統領 Vice President

ノリ・デカストロ  
Manuel Noli De Castro

愛称「カバヤン」。2001年の中間選挙で上院議員に初当選(トップ当選)し政界入りしたテレビキャスター/ラジオ・コメンテーター。04年5月の副大統領選でアロヨ大統領とコンビを組む与党の副大統領候補として出馬し、同じく人気キャスター出身のローレン・レガダ候補を破り当選。特定政党の党员ではないが与党陣営に属している。

アロヨ大統領の2004年大統領選挙での不正疑惑に関連して、大統領への辞任要求が高まった今年7月初旬、「副大統領としての仕事に専念する」という声明を出して大統領支持を確認したが、一方で兼任する要職を辞任したことで大統領昇格への準備ではないかという憶測を呼んだ。

▼データ→(03/06/03)

## 《閣僚》

### ■官房長官 Executive Secretary

エドゥアルド・エルミタ  
Eduardo R. Ermita

フィリピン国軍(AF P)の参謀次長から国防省次官を務めた退役将官で宣伝・心理戦のエキスパート。下院議員(LAKAS)を3期務めたのち、2001年1月に成立した第1期アロヨ政権で大統領和平交渉担当顧問(一時期、国防相代行を兼任)を務めていたが、03年8月下旬にレイエス国防相(当時:現内務自治相)が7月に発生した反乱将兵によるホテル占拠事件などの責任をとって辞任した後に、国防相に起用された。04年の第2期アロヨ政権成立時の内閣改造(8月)で現職に異動。

▼データ→(03/10/15)

### ■報道長官兼大統領報道官(スポークスマン)

Press Secretary and Presidential Spokesperson  
イグナシオ・ブンニェ  
Ignacio Bunye



ジャーナリスト、企業弁護士、政治家(市長・下院議員)という多才な経歴と能力をアロヨ大統領に買われて、2002年7月に報道長官(閣僚)に任命された(同ポストは、アロヨ政権成立以来のカブレラ[Noel C. Cabrera]氏が辞任したのち、当時のアフアブレ[Silvestre C. Afable]大統領府秘書局長が代行を務めていた)。03年1月からは、大統領首席補佐官(当時)に異動になったティグラオ氏(現大統領府秘書局長)の後を受けて大統領スポークスマンを兼任し現在に至っている。

アロヨ大統領の文字通りの「代弁者」として、04年の大統領選での不正疑惑などで政治的な難局に直面する大統領をその鋭い議論で一貫して擁護してきた。立場上当然といえるが、地元マスコミにもっとも頻繁に登場する閣僚といつてよい。

※アテネオ大学在学中から旧「マニラ・タイムズ」紙系のラジオ局DZMTや「デイリー・スター」紙の記者として活動し、当時ベトナム戦争に派遣されていたフィリピン部

隊の動向などを報道した。その後、企業弁護士として、アヤラ・インベストメント&ディベロップメント社やバンク・オブ・ザ・フィリピン・アイランズ(BPI)の管理職・役員を務めた。

1986年のエドサ革命(二月革命)後、アキノ大統領(当時)からマニラ首都圏モンテルバの町長代行に任命され政界入り。88年選挙で同町長に当選し2期(6年間)務めた後、95年にモンテルバが市に昇格した際の選挙で初代市長に当選した。通算で12年間の(代行を含む)首長時代に、民間企業で培った経営手法を町政運営に導入し多くのビジネスを誘致するなど、モンテルバを5等級行政区から「高度都市化市」にまで発展させた。

98年5月の国政・地方統一選挙で下院議員に初当選(モンテルバ市選挙区選出の初代議員)。エストラダ政権下では下院の少数派(野党)に属していたが、2001年1月に「第2エドサ革命」でアロヨ政権が誕生すると多数派リーダーのひとりとなった。この下院議員時代は、地方自治体への財政面などでの権限委譲運動を主導した。

## ▼データ

【現職】報道長官兼大統領報道官

【年齢】60歳(1945年4月19日生まれ)

【学歴】初等、中等教育を通じて卒業生総代(首席)、アテネオ・デマニラ大学卒(文学士・法学士)、アジア経営大学(AIM)経営学修士号取得

【経歴】1986:(アキノ政権)マニラ首都圏モンテルバ町長代行(OIC)に任命、88:同町長選で当選、91:同町長に再選、マニラ首都圏庁長官兼任(-92)、95:モンテルバ市初代市長に当選、98:下院議員に初当選(モンテルバ市選挙区)、2001:下院多数派上席副院内総務、02:(第1期アロヨ政権)[7月16日]報道長官、03:[1月20日]大統領スポークスマン、04:[8月24日](第2期アロヨ政権)報道長官(大統領スポークスマン兼任)

【活動】全国記者クラブ終生メンバー、マニラ海外記者クラブ・メンバー

【家族】ミラフロール(Dr. Miraflores Oca)夫人との間に3子

【横顔】愛称は「トーチン(Toting)」。

\*エストラダ前大統領(68)と誕生日が同じ。

\*英字紙「マニラ・ボレティン」の「スピー

キング・アウト」で毎週コラムを執筆しているほか、雑誌などでも「大統領府の見解」を伝えることに尽力している。

#### ■大統領府秘書局長

Head of Presidential Management Staff (PMS)  
リゴベルト・ティグラオ  
Rigoberto D. Tiglao



国際的に評価の高かったアジア問題専門誌「ファー・イースタン・エコノミック・レビュー」(本社：香港、廃刊)の元マニラ支局長。2001年の第1期アロヨ政権成立時に閣僚待遇の大統領スポークスマンとして政府入りし、(02年に京都大学特別研究員として日本に滞在していた半年間を除くと)一貫してアロヨ大統領の側近として政権を支えてきた。この間、報道長官兼大統領スポークスマン、大統領首席補佐官兼スポークスマン、大統領首席補佐官を歴任し、第2期政権では、第13代秘書局長として大統領府スタッフの「監督」を務めている。

※大学で哲学を専攻し、卒業後は地元紙やF E E R誌の記者・編集者として活躍した敏腕のジャーナリスト。各国のマスコミ関係者や外交官らと親交が深い。

#### ▼データ

【現職】大統領府秘書局長(閣僚 Secretary)

【年齢】53歳(1952年8月27日生まれ)

【学歴】1979：国立フィリピン大学(U P)卒(文学士：哲学専攻)

【経歴】1981：「ビジネス・デイ」紙経済部記者(-87)、香港誌「ファー・イースタン・エコノミック・レビュー(F E E R)」マニラ支局長(-93)、86：「マニラ・クロニクル」紙ビジネス・エディター/コラムニスト、88：(米)ハーバード大学ニーマン・ジャーナリズム研究財団フェロー、89：「フィリピン調査ジャーナリズム・センター」共同創設者・編集委員(-97)、93：F E E Rマニラ支局長(-2000)、01：[4月23日]大統領スポークスマン(閣僚)、02：[4月]報道長官兼大統領スポークスマン、[5月]京都大学特別研究員、[10月]大統領首席補佐官兼スポークスマン、[12月9日]大統領首席補佐官、04：[8月18日]大統領府秘書局長

【歴任】フィリピン外国人特派員協会会長

【家族】ゲッツイ(Getsy Selirio)夫人

【横顔】愛称は「ボビー(Bobi)」。

※著書・共著書は「Rebellion from

Barracks(兵舎からの反逆)」など6冊。

\*F E E Rマニラ支局長時代には、民主派のアキノ元上院議員が暗殺され、「エドサ革命」で同議員のコラソン・アキノ夫人が大統領に就任するまでの経過を世界に向かって発信した。

\*第1期アロヨ政権の一時期(01年9月から7カ月間)、「フィリピン・デイリー・インクアイラー」紙とテレビ局「GMA 7」のニュース・ウェブサイト「Inq7.net」の編集局長(上席副社長兼任)を務めている。

#### ■外相 Secretary of Foreign Affairs

アルベルト・ロムロ  
Alberto G. Romulo



アロヨ大統領の信頼が厚く、他の閣僚や大統領府スタッフからも高い評価と尊敬を得ている長老政治家(ステーツマン)であり経済・財政専門家。安全保障分野にも精通している。アロヨ大統領が01年1月20日の(第1期)就任宣誓式後の記者会見で入閣を言明した最初の人物である。アロヨ政権では一貫して閣僚ポストに就いており、財務長官、官房長官を経て04年8月から現職。

※マドリッド大学から法学博士号を取得した法律専門家でもあり、メトロ銀行役員を務めた経営者としての経験もある。マルコス政権期に国民議会議員として政界入り。アキノ政権で短期間、予算管理相に就任したのち、上院議員を2期務めた。議員時代には銀行・財政機関委員長として中央銀行新法や地方銀行法の起案を主導した。2000年にエストラダ前大統領の汚職疑惑が浮上した際は、アロヨ副大統領(当時)を支援し反エストラダ・キャンペーンのため全国を回った。

#### ▼データ

【現職】外務省長官

【年齢】72歳(1933年8月7日生まれ)

【生地】(中部ルソン地方)タルラク州カミリン

【学歴】1954：デ・ラ・サール大学(D L S U)商学部卒、58：マヌエル・L・ケソン大学法学部卒、63：(スペイン)マドリッド大学で法学博士号取得

【経歴】1984：(マルコス政権期)国民議会議員、86：(アキノ政権)予算行政管理相、87：上院議員、92：上院議員再選、2001：[1月](第1期アロヨ政権)財務長官、[6月]官房長官、04：[8月](第2期アロヨ政権)外相

【歴任】1992：多数派(与党)院内総務(-96)

【家族】ロージー(Rosie "Lovely" Tecson)夫人との間に5子。孫6人。

【横顔】愛称は「パート(Bert)」。物静かで何事も熟考した上で実行に移す性格。

\*04年7月に発生した在イラク・フィリピン人労働者人質事件では、官房長官(当時)としてアルバート(Delia Albert)外相(当時)とともに対応に当たった(フィリピン政府は7月19日、イラクから自国人道支援部隊を完全に撤退させ、これによって人質は20日に解放された)。

\*フィリピン最大の経済団体「マカティ・ビジネス・クラブ」会長のリカルド・ロムロ氏、ラモス政権期のロベルト・ロムロ外相は従兄弟。

#### ■内務自治相

Secretary of the Interior and Local Government  
アンヘロ・レイエス  
Angelo T. Reyes

国軍参謀総長としてエストラダ前大統領を支えたが、2001年1月に「ピープルズパワー2」が高まる中で前大統領への支持を撤回してエストラダ政権崩壊からアロヨ大統領誕生への流れを決定的にした。そうした「論功」にアロヨ大統領が報いる形で、第1期アロヨ政権では国防相に任命された。しかし、03年7月に発生した反乱将兵によるホテル占拠事件(クーデター未遂事件)で引責辞任した。その後、大統領誘拐対策顧問(誘拐取締り委員会[NAKTF]委員長)を経て、第2期政権で現職(NAKTF委員長兼任)に就任(04年7月12日)。

▼データ→(02/02/15)

#### ■国防相 Secretary of National Defense

アヴェリノ・クルス  
Avelino Cruz, Jr.



軍事・国内治安問題やテロ対策に精通した法律家。2004年総選挙で成立した第2期アロヨ政権で(第1期では国防相を務めたエルミタ氏が官房長官に異動したことに伴い)、大統領府法律顧問から国防相に抜擢された。法律顧問時代には、国家安全保障会議(NSC)および内閣国内治安管理委員会(COCC-ISA)のメンバーとして、反政府勢力の「フィリピン共産党(NDF/CPP/NPA)」や「モロ・イスラム解放戦線(MILF)」と政府との間の和平協定の草案作成・改訂を主導

した。また、フィリピン国軍(AFP)と米軍との対テロ演習(バリカタン02-1および03-01)の法的側面を整備している。こうした手腕がアロヨ大統領に認められたことが現職就任に導いた。

※1980年に弁護士事務所を開業し、20年以上にわたって法曹界でその能力を培った。2001年1月に成立した第1期アロヨ政権で大統領府法律顧問に任命され政界入りした。

## ▼データ

【現職】国防省長官  
 【年齢】52歳(1953年4月26日生まれ)  
 【生地】(中部ルソン地方)サンバレス州サンマルセリーノ(幼少期はバギオ市で過ごす)  
 【学歴】アテネオ・デマニラ大学卒(理学士:数学専攻)、1977:国立フィリピン大学(U.P)法学部卒(優等/cum laude)、司法試験に7番で合格(法曹資格)、米ニューヨーク弁護士資格免許取得  
 【経歴】1980:カルピオ・ビリャラサ&クルス法律事務所(現ビリャラサ・アンガンコ法律事務所)共同創設パートナー、2001:[1月](アロヨ政権)大統領府法律顧問(-04:[1月])、04:[8月25日]国防相  
 【歴任】1994:フィリピン法曹協会会長、2001:[1月]NSC/COC-IS各メンバー(-04:[1月])

【活動】UP法学部同窓生財団理事、東南アジア諸国連合(ASEAN)法律協会・国際法曹協会(IBA)・環太平洋法曹協会(IPBA)・ニューヨーク州法曹協会各会員

【家族】チャリト(Ma. Charito P.)夫人  
 【横顔】愛称は「ノノン(Nonong)」。  
 \*学生時代はUP法学生自治会、およびアテネオ大学学生評議会の各会長を務めるなど活動家として知られた。学生紙「ザ・フィリピン・カレッジアン」や「ザ・ガイドン(Guidon)」の編集幹部も務めた。

## ■司法相 Secretary of Justice

ラウル・ゴンザレス  
 Raul M. Gonzales



強制加盟制であるフィリピン統合弁護士会(日弁連に相当)の会長を務めたこともある長老格の法律家で元大学教授。1995年から下院議員(イロイロ市選挙区)を3期務めたのち、第2期アロヨ政権で現職に任命された。  
 ※独立機関であるオンブズマン(特別検察官兼任)など法律関連の政府要職を経て、下院議員に転じた。

## ▼データ

【現職】司法省長官  
 【年齢】74歳(1930年12月3日生まれ)  
 【生地】(西部ビサヤ地方)西ネグロス州ラ・カルクタ市  
 【学歴】1951:サン・アグスティン・カレッジ(現サン・アグスティン大学)卒(文学士:政治学専攻)、55:サント・トマス大学法学部卒、司法試験合格(法曹資格)  
 【経歴】1960:イロイロ州知事補佐官(法律)、61:マニラ市長補佐官(法律)、63:大統領府映画検閲委員会委員(-69)、70:上院労働・移住委員会上級顧問、下院教育問題委員会顧問(-72)、フィリピン師範大学/アサンブション・カレッジ/カレッジ・オブ・ホーリー・スピリット各講師、サント・トマス大学(UST)/ファー・イースタン大学/フィリピン商業カレッジ(現フィリピン・ポリテクニク大学)各教授、86:オンブズマン(Tnodbayan)兼特別検察官(-88)、95:下院議員(イロイロ市選挙区:3期)、2004:[8月18日](第2期アロヨ政権)司法相  
 【歴任】1979:フィリピン統合弁護士会会長(-81)、フィリピン法曹協会会長  
 【家族】パシタ(Dr Pacita Trinidad)夫人(医師、元下院議員)との間に3男2女  
 【横顔】通称「RMG」。  
 \*フィリピン国軍(AFP)の予備役中佐。

## ■財務相 Secretary of Finance

マルガリート・テベス  
 Margarito B. Teves



アロヨ大統領の2004年大統領選挙での不正疑惑に関連し、大統領の退陣を求める声明を出してセサル・プリシマ(Cesar A. V. Purisima)財務相(当時)ら閣僚および閣僚級高官10人が7月上旬に辞職したことを受け、政府系のフィリピン土地銀行(LBP)会長だった同(テベス)氏が同12日に後任の財務相に起用された。不良債権問題などを抱えていたLBPを資産規模で国内4位の金融機関として立て直した手腕が買われた。特定の大手企業との利権関係がなく、公僕意識の高い有能な人物として、経済界では財務相就任を歓迎する声が多い。国家財政を危機的状況から脱却させるために、税収の改善や歳出の見直しなど喫緊の課題に直面している。  
 ※エコノミスト、銀行家、政治家と多才な経歴を持つ。マルコス政権期に29歳の若さで制憲議会議員に任命された。1987年から3期務

めた下院議員時代には、中銀機能の強化、金融自由化、中小企業の支援など多くの財政・金融関連法案の策定・改正を主導した。エストラダ政権末期にLBP会長に就任。

## ▼データ

【現職】財務省長官  
 【年齢】62歳(1943年8月1日生まれ)  
 【生地】(サンボアンガ半島)北サンボアンガ州ティポログ  
 【学歴】1961:(スペイン)マドリッド中央大学卒(文学士)、65:(英)シティ・オブ・ロンドン・カレッジでビジネス学位取得、68:(米マサチューセッツ州)ウィリアム大学で経済学修士号取得(開発経済)  
 【経歴】1971:(マルコス政権期)制憲議会議員、87:下院議員(東ネグロス3区、3期)、98:[7月]「シンクタンク社」会長・最高経営責任者(CEO)、2000:[9月](エストラダ政権期)フィリピン土地銀行(LBP)会長・CEO、05:[7月12日](第2期アロヨ政権)財務相  
 【兼任】05:[7月12日]フィリピン輸出入金融公社(PhilEXIM)総裁  
 【歴任】下院地方開発委員会/経済問題委員会各委員長、フィリピン経済協会(PES)会長、マカティ・ビジネス・クラブ会員、フィリピン企業プランニング協会創設者、フィリピン未来協会理事、(LBP系列)国民信用金融公社/フィリピン穀物保険公社各理事長、食糧庁/フード・ターミナル社各理事、マニラ電力会社(Meralco)/フィルイクイティ(PhiEquity)基金各理事  
 【横顔】愛称は「ゲリー(Gary)」。  
 \*常に温厚な雰囲気をもっている紳士。

## ■予算行政管理相

Secretary of Budget and Management  
 ロムロ・ネリ  
 Romula L. Neri



アロヨ大統領の退陣を求める閣僚および閣僚級高官が7月上旬に「集団辞職」した直後に、エミリア・ボンコディン(Emilia T. Boncodin)氏(前予算行政管理相)の後任として国家経済開発庁(NEDA)長官から現職に「横滑り」になった。  
 ※民間および政府系企業・公社の財政企画担当幹部を歴任し、アジア経営大学(AIM)準教授に就任。この間、立法府のシンクタンクである下院予算企画局の局長も務めた。第1

期アロヨ政権の2002年12月にNEDA長官として入閣。

▼データ

【現職】 予算行政管理省長官

【年齢】 55歳(1950年2月1日生まれ)

【学歴】 1970：国立フィリピン大学(UP)経営学部卒(マーケティング専攻、次席/magna cum laude)、79：(米)カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)で経営学修士号(MBA)取得(財政・国際経営学専攻)

【経歴】 1970：UP経営学部講師、71：リバーサイド・ミルズ社長補佐、73：モビル石油(フィリピン)財務アナリスト、75：ルソン荷役(スティーブドアリング)社企画コーディネーター、76：国营石油公社企画調整官、77：同公社財政次長、80：カンルバン・シュガー・エステート社/カンルバン・パルプ&マニュファクチャリング社/C. J. ユーロ&サンズ社各企画部長、85：アジア経営大学(AIM)準教授、90：下院企画予算局(CPBO)局長、02：[12月17日] (第1期アロヨ政権)国家経済開発庁(NEDA)長官、05：[7月12日] (第2期政権)予算行政管理相

【家族】 独身

【横顔】 フィリピンで最も優れた経済思想家の一人と目されている。

\*NEDAの会合で示した経済企画能力にアロヨ大統領が感服したことが、第1期アロヨ政権でNEDA長官として入閣を打診されるきっかけとなった。

■貿易産業相 Secretary of Trade and Industry

ピーター・ファビラ

Peter B. Favila



7月初旬、閣僚および閣僚級高官10人(通称「ハヤット10」)がアロヨ大統領に反旗を翻して「集団辞職」した直後に、10人の一人であるファン・サントス(Juan B. Santos)氏の後任として現職に任命された。前職はフィリピン証券取引所会長。

※元来は金融の専門家、複数の銀行のトップを歴任したが、産業分野でも大手企業や公社の役員・理事も兼任している。フィリピン商工会議所関係者は「金融市場だけでなく、産業界の様々なニーズにも精通した人物」として、貿易産業相への就任を歓迎している。

▼データ

【現職】 貿易産業省長官

【年齢】 57歳(1948年8月27日生まれ)

【生地】 マニラ

【学歴】 サント・トマス大学商学部卒(銀行・金融専攻)、(米)ペンシルバニア大学ウォートン校で高等経営学課程を修了

【経歴】 メトロポリタン・バンク&トラスト上級副社長、セキュリティ・バンク/アライド・バンク/フィリピン・ナショナル・バンク(PNB)各頭取、(アロヨ)大統領インフラストラクチャー財政担当顧問、(デベネシア)下院議長経済顧問、フィリピン証券取引所会長、05：[7月14日] 貿易産業相

【歴任】 アジア銀行家協会副会長、ASEAN商工会議所理事、フィリピン航空取締役、鉄鋼公社理事など民間企業役員、公社理事多数

【家族】 アリス(Alice Arnaldo)夫人との間に2子

【横顔】 フランシス・チュア(Francis Chua)フィリピン商工会議所会頭の評「ピーター(ファビラ貿易産業相)と産業界には共通の理解がある。ビジネス振興や中小企業の育成に尽力して欲しい。金融界で発揮した能力は貿易産業界でも通用すると期待したい」

■国家経済開発庁長官

Director-General, National Economic and Development Authority(NEDA)

アウグスト・サントス

Augusto B. Santos



「ハヤット10」閣僚(当時の「集団辞職」に伴い、予算行政管理相に「横滑り」したネリ氏の後任として7月12日に国家経済開発庁(NEDA)副長官から閣僚職である現職に昇格した。

※前身機関の「国家経済協議会(NEC)」時代からNEDA一筋に歩んできた官僚の出身で、政府開発援助の調整とプロジェクト開発、インフラ整備、地域開発、土地活用など開発分野の専門家である。

▼データ

【現職】 国家経済開発庁(NEDA)長官

【学歴】 国立フィリピン大学(UP)卒(化学工学)、同大学で経営学修士号(MBA)取得

【経歴】 1987：(世界銀行融資)国家輸送計画プロジェクト・ディレクター(-89)、90：NEDAインフラストラクチャー局長、92：NEDA次官補(投資計画)、2000：[3月28日] NEDA副長官、05：[7月12日] (第2期アロヨ政権)NEDA長官

【兼任】 国家土地活用委員会委員長、フィ

リピン輸出入金融公社監査委員長、UNICEF児童支援プログラム運営委員会委員長、フィリピン港湾公団/フィリピン貿易投資開発公社/国家灌漑行政委員会各理事(NEDA代表)、軽便鉄道輸送公団理事、児童福祉協議会委員、他

【横顔】 アロヨ大統領の評「非常に有能であるとともにプロ意識が高い」

■労働雇用相

Secretary of Labor and Employment

パトリシア・サント・トマス

Patricia Sto. Tomas



労働雇用省(DOLE)生え抜きの閣僚。第1期アロヨ政権成立時から一貫して現職に就いており、アロヨ大統領の信頼が厚いことを示している。

※70~80年代の大半をDOLE幹部として勤務したのち、短期間の教育省次官補などを経て最終的にDOLEトップに就任した。

▼データ

【現職】 労働雇用省長官

【年齢】 59歳(1946年4月24日生まれ)

【生地】 (ミマロパ地方)東ミンドロ州サンタロサ

【学歴】 ファー・イースタン大学卒(文学士)、国立フィリピン大学(UP：ロス・パニョス)で理学修士号取得、米ハーバード大学で修士号(行政学)取得

【経歴】 1964：上院事務官(-66)、70年代：労働雇用省(DOLE)人材開発部長等、78：UP産業関係研究所講師(-79)、82：DOLEフィリピン海外雇用庁(POEA)管理官、教育省次官補、88：公務員委員会委員長、95：UP行政学部教授(-96)、99：アテネオ・デマニラ大学政治学部講師、01：[3月16日] 労働雇用相

【家族】 未亡人。夫君は故アンヘル・サント・トマス(Angel G. Sto. Tomas)氏

〈お断り〉次号に農相、教育相、エネルギー相、環境・天然資源相、保健相、農地改革相、公共事業・道路相、科学技術相、社会福祉開発相、観光相、運輸通信相、大統領安全保障顧問、大統領府法律顧問、大統領府政治顧問の[人物データ・ファイル]を掲載する予定です。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)